

東海北陸厚生局長 殿

国立大学法人
三重大学医学部附属病院
竹 田



国立大学法人三重大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3の規定に基づき、平成23年度の業務に関して報告します。

記

- 1. 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2. 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3. 高度の医療に関する研修の実績

| | |
|--------|-----|
| 研修医の人数 | 66人 |
|--------|-----|

 (注)前年度の研修医の実績を記入すること
- 4. 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第12)
- 5. 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績 → 別紙参照(様式第13)
- 6. 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第13)
- 7. 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

| 職 種 | 常 勤 | 非 常 勤 | 合 計 | 職 種 | 員 数 | 職 種 | 員 数 |
|-----------|------|-------|--------|---------------|-----|-----------------------|------|
| 医 師 | 228人 | 159人 | 370.4人 | 看 護 補 助 者 | 70人 | 診 療 エ ッ ク ス 線 技 師 | 0人 |
| 歯 科 医 師 | 8人 | 14人 | 21.6人 | 理 学 療 法 士 | 8人 | 臨 床 検 査 技 師 | 55人 |
| 薬 剤 師 | 22人 | 21人 | 43.0人 | 作 業 療 法 士 | 2人 | 衛 生 検 査 技 師 | 1人 |
| 保 健 師 | 0人 | 2人 | 1.1人 | 視 能 訓 練 士 | 6人 | そ の 他 | 2人 |
| 助 産 師 | 26人 | 2人 | 26.5人 | 義 肢 装 具 士 | 0人 | あ ん 摩 マ ッ サ ー ジ 指 圧 師 | 0人 |
| 看 護 師 | 379人 | 113人 | 450.1人 | 臨 床 工 学 士 | 19人 | 医 療 社 会 事 業 従 事 者 | 11人 |
| 准 看 護 師 | 1人 | 7人 | 5.1人 | 栄 養 士 | 0人 | そ の 他 の 技 術 員 | 17人 |
| 歯 科 衛 生 士 | 0人 | 5人 | 4.0人 | 歯 科 技 工 士 | 2人 | 事 務 職 員 | 193人 |
| 管 理 栄 養 士 | 5人 | 5人 | 8.8人 | 診 療 放 射 線 技 師 | 32人 | そ の 他 の 職 員 | 39人 |

- (注) 1. 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2. 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3. 「合計」の欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下第2位を切り捨て、小数点以下第1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計数を記入すること。

8. 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

| | 歯 科 等 以 外 | 歯 科 等 | 合 計 |
|---------------|-----------|-------|----------|
| 1日当たりの平均入院患者数 | 539.8人 | 13.9人 | 553.7人 |
| 1日当たりの平均外来患者数 | 1,089.1人 | 90.3人 | 1,179.4人 |
| 1日当たりの平均調剤数 | | | 576.5剤 |

- (注) 1. 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2. 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3. 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4. 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱い患者数

| 先進医療の種類 | 取扱患者数 |
|----------------------------------------|-------|
| インプラント義歯 | 0人 |
| 先天性血液凝固異常症の遺伝子診断 | 1人 |
| 骨髄細胞移植による血管新生療法 | 0人 |
| Real Time PCR法を用いたEBウイルス感染症の迅速診断 | 0人 |
| 内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術 | 0人 |
| HDRA法又はCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験 | 4人 |
| IL28Bの遺伝子診断によるインターフェロン治療効果の予測評価 | 61人 |
| YP2C19遺伝子多型検査に基づくテラーメドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法 | 2人 |
| 先天性難聴の遺伝子診断 | 1人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第二百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱い患者数

| 先進医療の種類 | 取扱患者数 |
|-------------------------|-------|
| 早期胃癌に対する服腔鏡下センチネルリンパ検索 | 0人 |
| 胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法 | 83人 |
| 腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法 | 15人 |
| 骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法 | 10人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

| | | | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|-------|-----|
| 医療技術名 | 副腎腫瘍に対するラジオ波焼灼療法 | 取扱患者数 | 0人 |
| 当該医療技術の概要 ラジオ波通電用手電極をCT画像ガイド下にて経皮的に腫瘍に穿刺し、腫瘍に対してラジオ波発生装置による凝固療法 | | | |
| 医療技術名 | 舌下免疫療法 | 取扱患者数 | 20人 |
| 当該医療技術の概要 スギ花粉症の原因であるスギ花粉のエキスを食パンのかけらにたらし、舌の下に2～3分程度含むことにより、エキスを継続的に体内に入れて体を慣らし、アレルギー反応を減らす | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

| 疾 患 名 | 取扱い 患者数 | 疾 患 名 | 取扱い 患者数 |
|-----------------------------------|------------|---------------------------|------------|
| ・ベーチェット病 | 39 人 | ・膿疱性乾癬 | 16 人 |
| ・多発性硬化症 | 46 人 | ・広範脊柱管狭窄症 | 1 人 |
| ・重症筋無力症 | 55 人 | ・原発性胆汁性肝硬変 | 45 人 |
| ・全身性エリテマトーデス | 124 人 | ・重症急性膵炎 | 6 人 |
| ・スモン | 3 人 | ・特発性大腿骨頭壊死症 | 11 人 |
| ・再生不良性貧血 | 31 人 | ・混合性結合組織病 | 17 人 |
| ・サルコイドーシス | 52 人 | ・原発性免疫不全症候群 | 1 人 |
| ・筋萎縮性側索硬化症 | 27 人 | ・特発性間質性肺炎 | 10 人 |
| ・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎 | 181 人 | ・網膜色素変性症 | 22 人 |
| ・特発性血小板減少性紫斑病 | 45 人 | ・プリオン病 | 2 人 |
| ・結節性動脈周囲炎 | 12 人 | ・肺動脈性肺高血圧症 | 21 人 |
| ・潰瘍性大腸炎 | 178 人 | ・神経線維腫症 | 12 人 |
| ・大動脈炎症候群 | 18 人 | ・亜急性硬化性全脳炎 | 0 人 |
| ・ビュルガー病 | 10 人 | ・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群 | 1 人 |
| ・天疱瘡 | 18 人 | ・特発性慢性肺血栓塞栓症(肺高血圧型) | 10 人 |
| ・脊髄小脳変性症 | 20 人 | ・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む | 0 人 |
| ・クローン病 | 101 人 | ・副腎白質ジストロフィー | 0 人 |
| ・難治性の肝炎のうち劇症肝炎 | 3 人 | ・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体) | 0 人 |
| ・悪性関節リウマチ | 5 人 | ・脊髄性筋萎縮症 | 0 人 |
| ・パーキンソン病関連疾患 | 76 人 | ・球脊髄性筋萎縮症 | 0 人 |
| ・アミロイドーシス | 4 人 | ・慢性炎症性脱髄性多発神経炎 | 8 人 |
| ・後縦靭帯骨化症 | 45 人 | ・肥大型心筋症 | 2 人 |
| ・ハンチントン病 | 3 人 | ・拘束型心筋症 | 0 人 |
| ・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症) | 24 人 | ・ミトコンドリア病 | 1 人 |
| ・ウェゲナー肉芽腫症 | 3 人 | ・リンパ管筋腫症(LAM) | 1 人 |
| ・特発性拡張型(うっ血型)心筋症 | 53 人 | ・重症多形滲出性紅斑(急性期) | 5 人 |
| ・多系統萎縮症 | 22 人 | ・黄色靭帯骨化症 | 0 人 |
| ・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型) | 1 人 | ・間脳下垂体機能障害 | 30 人 |
| (注)「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。 | | 合計 | 1,421 人 |

(様式第10)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

| 施設基準等の種類 | 施設基準等の種類 |
|-------------------|----------|
| ・ CT透視下気管支鏡検査加算 | ・ |
| ・ 腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術 | ・ |
| ・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術 | ・ |
| ・ 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術 | ・ |
| ・ 広範囲顎骨支持型装置埋入手術 | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |

(注)「施設基準等の種類」欄には業務報告を行う3年前の4月以降に健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供したものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病院・臨床検査部門の概要

| | | | |
|--------------------------------------|----------------------------------------------------------------|------|-----------|
| 臨床検査及び病理診断を実施する部門の 状況 | <input checked="" type="checkbox"/> 1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 | | |
| | <input type="checkbox"/> 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。 | | |
| 臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査 部門と開催した症例検討会の開催頻度 | 1週間に 1回程度(3種類の検討会) 1カ月に 2回程度(1種類の検討会) 1カ月に 1回程度(2種類の検討会) | | |
| 剖 検 の 状 況 | 剖検症例数 | 24 例 | 剖検率 6.9 % |

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

| No. | 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 |
|-----|------------------------------------------|--------|-----------|-------------|-------------------------------------------------|
| 1 | 繊維・粒子状物質による呼吸器の発がん性・線維原性の包括的リスク評価システムの開発 | 平工 雄介 | 大学院医学系研究科 | 5,200,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 2 | 2光子励起顕微鏡を用いた大腸癌化及び癌、周囲間質応答の新規確認提示 | 楠 正人 | 大学院医学系研究科 | 1,040,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 3 | 生理活性を有する脳血管内治療用デバイスの開発研究 | 滝 和郎 | 大学院医学系研究科 | 5,200,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 4 | 成人病胎児期起源仮説の実験的検証とその臨床応用に関する総合的研究 | 佐川 典正 | 大学院医学系研究科 | 3,770,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 5 | 感染・炎症関連発がんの分子機構の解明とがん予防 | 村田 真理子 | 大学院医学系研究科 | 5,200,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 6 | 新規がん幹細胞モデルマウスの作製とMLL関連白血病発生の分子基盤 | 野阪 哲哉 | 大学院医学系研究科 | 5,980,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 7 | 中枢神経系機能性疾患における病態成熟過程の解析 | 岡田 元宏 | 大学院医学系研究科 | 4,420,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 8 | プロテオミクスによる酸化損傷蛋白質を指標としたパーキンソン病リスク評価法の開発 | 及川 伸二 | 大学院医学系研究科 | 7,020,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 9 | 分子遺伝子学を導入した運動器不安定症疫学調査 | 須藤 啓広 | 大学院医学系研究科 | 6,890,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 10 | 中国南部に多発する上咽頭癌の分子疫学的研究と早期診断マーカーの探索 | 村田 真理子 | 大学院医学系研究科 | 5,980,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 11 | 環境化学物質のT細胞免疫応答攪乱による炎症性腸疾患増悪と大腸発がん促進機構の解明 | 加藤 琢磨 | 大学院医学系研究科 | 910,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 12 | 遺伝子改変マウスを用いた慢性閉塞性肺疾患発症機序の解明と新治療法の開発 | 田口 修 | 大学院医学系研究科 | 780,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 13 | 乳癌の進展における不完全な上皮-間葉移行現象とその分子機構 | 吉田 利通 | 大学院医学系研究科 | 1,170,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 14 | 血栓症における過凝固症の早期診断ならびに発症機構の解明 | 和田 英夫 | 大学院医学系研究科 | 650,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 15 | ヒト疾患に近いシステムを用いた白血病発症におけるBCR-ABL1遺伝子の機能解析 | 片山 直之 | 大学院医学系研究科 | 1,300,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 16 | ポリオウイルスを用いた神経芽腫の新しい治療法の研究 | 豊田 秀実 | 大学院医学系研究科 | 650,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 17 | 表皮を免疫調整臓器とする新規アレルギー疾患治療の開発 | 水谷 仁 | 大学院医学系研究科 | 650,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 18 | 疾患の異種性に着目したパニック障害の病態研究 | 谷井 久志 | 大学院医学系研究科 | 1,430,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 19 | 難治性癌に対するGITRL-Fc融合蛋白発現腫瘍による新規腫瘍細胞ワクチンの開発 | 池田 裕明 | 大学院医学系研究科 | 650,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 20 | 宿主・腫瘍相乗的サイトカイン産生連鎖機構の制御による癌悪液質の回避 | 三木 誓雄 | 大学院医学系研究科 | 650,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 21 | 過少グラフトを用いた生体部分肝移植への挑戦と克服 | 伊佐地 秀司 | 大学院医学系研究科 | 910,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 22 | 肺高血圧症における凝固・炎症カスケード解析による治療標的の解明 | 丸山 一男 | 大学院医学系研究科 | 1,040,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 23 | 癌間質による前立腺癌幹細胞ニッチ形成機構の解明・癌間質標的療法へ向けた基礎的研究 | 有馬 公伸 | 大学院医学系研究科 | 1,300,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 24 | 頭頸部腫瘍における蛋白ワクチンによる腫瘍破壊の免疫モニタリング | 影山 慎一 | 大学院医学系研究科 | 910,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 25 | 温灸によるタキサン系抗がん剤副作用の「しびれ」改善効果に関する研究 | 辻川 真弓 | 医学部 | 910,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 26 | 心筋梗塞後の両室リモデリング進展における新たな修飾因子の解明 | 土肥 薫 | 大学院医学系研究科 | 780,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 27 | 慢性脳低還流状態における内皮細胞・血液脳関門障害の病態解明 | 矢田 健一郎 | 大学院医学系研究科 | 1,430,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 28 | 電気式離脱型頭蓋内ステントの開発研究 | 阪井田 博司 | 大学院医学系研究科 | 910,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 29 | VEGF(血管内皮増殖因子)中和抗体を用いた後縦靭帯骨化症治療の開発 | 浅沼 由美子 | 大学院医学系研究科 | 780,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 30 | がんの骨転移に対する物理化学的および分子生物学的治療の開発に関する研究 | 加藤 公 | 大学院医学系研究科 | 1,300,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 31 | 細胞外環境による前立腺・膀胱の発生や形態形成の制御機構 | 杉村 芳樹 | 大学院医学系研究科 | 1,040,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 32 | 前立腺ラテント癌から顕在癌までの癌浸潤マクロファージの解析 | 広川 佳史 | 大学院医学系研究科 | 2,340,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 33 | 小児スギ花粉症の舌下免疫療法と誘導性制御性T細胞およびIgG4による作用機序解明 | 湯田 厚司 | 大学院医学系研究科 | 1,560,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 34 | 上気道の難治病態における粘液分泌過多の機序の解明とその制御 | 竹内 万彦 | 大学院医学系研究科 | 1,430,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |

1 研究費補助等の実績

| No. | 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 |
|-----|------------------------------------------|--------|-----------|-------------|-------------|
| 35 | 神経堤と中胚葉を標識できるマウスを用いた歯髄及び骨髄幹細胞の起源と性状の解明 | 山崎 英俊 | 大学院医学系研究科 | 1,040,000 円 | 補委 科学研究費補助金 |
| 36 | 難治性白血病におけるマイクロRNAを介した分子病態の解明及び新たな治療戦略の探索 | 小埜 良一 | 大学院医学系研究科 | 1,040,000 円 | 補委 科学研究費補助金 |
| 37 | 長期入院がん患児のディフィシル関連下痢症の予防ケアに関する教育プログラムの開発 | 村端 真由美 | 医学部 | 650,000 円 | 補委 科学研究費補助金 |
| 38 | ERK2の恒常的活性化変異による病態発症:細胞早期老化を中心とした解析 | 杉村 和人 | 大学院医学系研究科 | 1,430,000 円 | 補委 科学研究費補助金 |
| 39 | 肺免疫染色を用いた死亡前における全身状態の病理組織学的評価法に関する研究 | 井上 裕匡 | 大学院医学系研究科 | 1,170,000 円 | 補委 科学研究費補助金 |
| 40 | 血液凝固制御因子とギャップ結合による血管内皮細胞の機能維持機構の解明 | 岡本 貴行 | 大学院医学系研究科 | 1,820,000 円 | 補委 科学研究費補助金 |
| 41 | 難治性リンパ腫の病態に関連する遺伝子群の解明と新規治療標的分子の同定 | 宮崎 香奈 | 大学院医学系研究科 | 1,300,000 円 | 補委 科学研究費補助金 |
| 42 | 抗原受容体改変T細胞による治療抵抗性消化器癌に対する新規細胞輸注療法 | 今井 奈緒子 | 大学院医学系研究科 | 1,560,000 円 | 補委 科学研究費補助金 |
| 43 | 悪性腫瘍患者からの臓器移植が成立し得ることを証明する | 大澤 一郎 | 大学院医学系研究科 | 1,365,000 円 | 補委 科学研究費補助金 |
| 44 | NOGマウスを用いたがん特異的ヒトT細胞の機能解析:CD8、CD4細胞相互作用 | 王 立楠 | 大学院医学系研究科 | 1,469,000 円 | 補委 科学研究費補助金 |
| 45 | STAP2のメモリーCD8陽性T細胞における機能解析と癌免疫療法への応用 | 村岡大輔 | 医学系研究科 | 1,690,000 円 | 補委 科学研究費補助金 |
| 46 | ヒトリンパ球分化機構の解明と移植療法への応用 | 大石 晃嗣 | 医学部附属病院 | 1,560,000 円 | 補委 科学研究費補助金 |
| 47 | 実験的肺高血圧の発症におけるIL6-Th17/Treg系の役割 | 三谷 義英 | 医学部附属病院 | 1,040,000 円 | 補委 科学研究費補助金 |
| 48 | 統合失調症における感覚情報処理異常の解明—ミスマッチ反応を用いて | 元村 英史 | 医学部附属病院 | 1,170,000 円 | 補委 科学研究費補助金 |
| 49 | 拡散テンソル画像を用いた非定型精神病における視床下部へのフィードバック障害の解析 | 城山 隆 | 医学部附属病院 | 780,000 円 | 補委 科学研究費補助金 |
| 50 | 大腸癌肺転移に対する経皮的ラジオ波凝固療法と肺切除の無作為化臨床比較試験 | 山門 亨一郎 | 医学部附属病院 | 650,000 円 | 補委 科学研究費補助金 |
| 51 | 化学放射線療法後の直腸癌遠隔転移誘導メカニズムの解明 | 井上 靖浩 | 医学部附属病院 | 130,000 円 | 補委 科学研究費補助金 |
| 52 | 肺虚血再灌流障害の発症機序—TLR4を介した細胞内シグナル伝達経路の解明— | 島本 亮 | 医学部附属病院 | 520,000 円 | 補委 科学研究費補助金 |
| 53 | 無症候性肺動脈性肺高血圧症の進展予測と早期治療効果に関する検討 | 山田 典一 | 医学部附属病院 | 780,000 円 | 補委 科学研究費補助金 |
| 54 | siRNAによる気道リモデリング制御方法の検討及び創薬の可能性の検討 | 小林 哲 | 医学部附属病院 | 1,690,000 円 | 補委 科学研究費補助金 |
| 55 | 320列CTを用いた冠動脈プラークボリュームと心筋血流予備能の総合的診断法の確立 | 北川 覚也 | 医学部附属病院 | 1,170,000 円 | 補委 科学研究費補助金 |
| 56 | ラジオ波凝固による骨粗鬆症モデルへのビスフォスフォネート製剤の椎体内注入 | 中塚 豊真 | 医学部附属病院 | 520,000 円 | 補委 科学研究費補助金 |
| 57 | 直腸癌転移再発制御を目指した癌幹細胞の放射線誘導性上皮間葉移行の分子生物学的研究 | 田中 光司 | 医学部附属病院 | 910,000 円 | 補委 科学研究費補助金 |
| 58 | くも膜下出血後脳損傷の病態解明と新規治療法の開発 | 鈴木 秀謙 | 医学部附属病院 | 1,560,000 円 | 補委 科学研究費補助金 |
| 59 | テネイシンCの軟骨修復促進作用における分子機構の解明とその治療への応用 | 長谷川 正裕 | 医学部附属病院 | 1,430,000 円 | 補委 科学研究費補助金 |
| 60 | 炎症の観点からみた肥満妊娠と次世代へのエピジェネティクス制御に関する検討 | 杉山 隆 | 医学部附属病院 | 1,040,000 円 | 補委 科学研究費補助金 |
| 61 | 血中腫瘍由来ペプチドの網羅的解析による新規バイオマーカーの探索 | 山本 憲彦 | 医学部附属病院 | 1,170,000 円 | 補委 科学研究費補助金 |
| 62 | 肝移植医療における脂肪肝過小グラフトの限界と挑戦 | 水野 修吾 | 医学部附属病院 | 780,000 円 | 補委 科学研究費補助金 |
| 63 | シスプラチン毒性代謝物の尿細管輸送特性に基づく腎障害予防法の基盤構築 | 岩本 卓也 | 医学部附属病院 | 780,000 円 | 補委 科学研究費補助金 |
| 64 | 休止期にある急性リンパ性白血病幹細胞に対する有効な治療開発 | 木平 健太郎 | 医学部附属病院 | 650,000 円 | 補委 科学研究費補助金 |
| 65 | 脂肪肝による肝移植への挑戦—虚血再灌流障害から移植を炎症と凝固を礎として | 岸和田 昌之 | 医学部附属病院 | 780,000 円 | 補委 科学研究費補助金 |
| 66 | 頭頸部血管病変に対する冷却バルーン臨床応用及び頭頸部血管専用冷却バルーンの開発 | 山道 茜 | 医学部附属病院 | 1,300,000 円 | 補委 科学研究費補助金 |
| 67 | 臨床応用を目指した血液凝固関連因子による骨リモデリング制御機構の細胞生物学的研究 | 吉田 格之進 | 医学部附属病院 | 2,080,000 円 | 補委 科学研究費補助金 |
| 68 | 光線療法を用いた腱細胞の修復再生促進効果の研究 | 里中 東彦 | 医学部附属病院 | 1,560,000 円 | 補委 科学研究費補助金 |
| 69 | 椎間板バイオマテリアルの開発—椎間板変性に対する革新的治療戦略に向けて— | 明田 浩司 | 医学部附属病院 | 1,430,000 円 | 補委 科学研究費補助金 |
| 70 | 大腸癌肺転移形成に関連するエピジェネティック変化の分子機構と治療への応用 | 藤川裕之 | 医学部附属病院 | 1,170,000 円 | 補委 科学研究費補助金 |

1 研究費補助等の実績

| No. | 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 |
|-----|------------------------------------------|-------------------|-----------|-------------|---------------|
| 71 | 妊娠糖尿病における網膜症の進行機序解明と治療・検査への応用 | 杉本昌彦 | 医学部附属病院 | 1,690,000 円 | ✓ 補委 科学研究費補助金 |
| 72 | 食品含有ナノ粒子による腸管免疫機構の破綻を介した消化管炎症反応の解明とリスク評価 | 及川佐枝子 (多田佐枝子) | 地域イノベーション | 1,690,000 円 | ✓ 補委 科学研究費補助金 |
| 73 | 途上国における食と生活習慣によるアルツハイマー病発症のリスク評価と予防法の構築 | 翠川 薫 | 大学院医学系研究科 | 2,470,000 円 | ✓ 補委 科学研究費補助金 |
| 74 | 末梢におけるFOXP3陽性制御性T細胞への分化メカニズム解析とがん治療への応用 | 宮原 慶裕 | 大学院医学系研究科 | 2,470,000 円 | ✓ 補委 科学研究費補助金 |
| 75 | 肥満による慢性炎症性病変の新規制御機構の解析 | 緒方 正人 | 大学院医学系研究科 | 1,820,000 円 | ✓ 補委 科学研究費補助金 |
| 76 | フローサイトメリーによる核酸代謝酵素欠損症診断法の基礎的検討 | 登 勉 | 大学院医学系研究科 | 1,820,000 円 | ✓ 補委 科学研究費補助金 |
| 77 | 紀伊半島のALSとパーキンソン認知症複合患者由来iPS細胞の作成と神経細胞誘導 | 小久保 康昌 | 大学院医学系研究科 | 1,950,000 円 | ✓ 補委 科学研究費補助金 |
| 78 | BMPR2関連遺伝子改変マウスを用いた炎症性肺高血圧モデルの作成 | 澤田 博文 | 大学院医学系研究科 | 2,600,000 円 | ✓ 補委 科学研究費補助金 |
| 79 | 進行肝細胞癌に対する、標準的肝動注化学療法確立に関する多施設共同研究 | 高木 治行 | 医学部 | 1,820,000 円 | ✓ 補委 科学研究費補助金 |
| 80 | 弱毒化ポリオウイルスを用いた悪性骨軟部腫瘍に対する画期的な細胞融解療法の開発 | 松峯 昭彦 | 大学院医学系研究科 | 2,860,000 円 | ✓ 補委 科学研究費補助金 |
| 81 | 人工呼吸器誘発肺傷害 (VILI) の硫化水素による治療 | 張 尔泉 | 大学院医学系研究科 | 2,470,000 円 | ✓ 補委 科学研究費補助金 |
| 82 | トランスジェニックウサギを用いた錐体系網膜電図の新しい概念の確立 | 近藤 峰生 | 大学院医学系研究科 | 2,210,000 円 | ✓ 補委 科学研究費補助金 |
| 83 | 地域密着型クリニックを拠点とする運動器不安定症高齢者の運動支援プログラム開発 | 福録 恵子 | 医学部 | 3,120,000 円 | ✓ 補委 科学研究費補助金 |
| 84 | 新規肥満治療ターゲットの発見とオミックス機構の解明 | 田中 利男 | 大学院医学系研究科 | 2,340,000 円 | ✓ 補委 科学研究費補助金 |
| 85 | 炎症関連発がんにおけるmicroRNAの役割とバイオマーカーとしての有用性の検討 | 村田 真理子 | 大学院医学系研究科 | 1,950,000 円 | ✓ 補委 科学研究費補助金 |
| 86 | MicroRNomicsを基盤とする繊維・粒子状物質の健康障害リスク評価法の構築 | 平工 雄介 | 大学院医学系研究科 | 1,950,000 円 | ✓ 補委 科学研究費補助金 |
| 87 | 次世代型メロノマ経鼻噴霧ワクチンベクターによる遺伝子免疫療法 | 河野 光雄 | 大学院医学系研究科 | 2,080,000 円 | ✓ 補委 科学研究費補助金 |
| 88 | 発症予防を目的とした機能性疾患治療薬開発スクリーニング法の開発 | 岡田 元宏 | 大学院医学系研究科 | 2,080,000 円 | ✓ 補委 科学研究費補助金 |
| 89 | 酸性環境下での発現細胞膜蛋白の解析と磁性体温熱療法による腫瘍標的治療の開発 | 浅沼 邦洋 | 大学院医学系研究科 | 4,030,000 円 | ✓ 補委 科学研究費補助金 |
| 90 | ストレス性内耳疾患の病態解明と臨床への応用 | 江藤 みちる (伊田みちる) | 医学部 | 1,690,000 円 | ✓ 補委 科学研究費補助金 |
| 91 | アラミン概念に基づく2光子レーザー顕微鏡を用いた壊死性腸炎の病態解明と治療戦略 | 小池 勇樹 | 大学院医学系研究科 | 1,820,000 円 | ✓ 補委 科学研究費補助金 |
| 92 | 隣癌患者の体験および看護支援プログラムの検討 | 犬丸 杏里 | 医学部 | 650,000 円 | ✓ 補委 科学研究費補助金 |
| 93 | 炎症性サイトカインによる尿細管薬物トランスポータの機能制御とその役割解明 | 奥田 真弘 | 医学部附属病院 | 1,430,000 円 | ✓ 補委 科学研究費補助金 |
| 94 | 肝臓に対するインクレチン作用機序の解明 | 藤田 尚己 | 医学部附属病院 | 1,950,000 円 | ✓ 補委 科学研究費補助金 |
| 95 | 小児急性リンパ性白血病の微小残存病変を用いた白血病幹細胞特性解析の試み | 出口 隆生 | 医学部附属病院 | 2,080,000 円 | ✓ 補委 科学研究費補助金 |
| 96 | IL-10の局所誘導によるスギ花粉症及びアトピー性皮膚炎の治療 | 山中 恵一 | 医学部附属病院 | 2,470,000 円 | ✓ 補委 科学研究費補助金 |
| 97 | 3テスラDENSE MRIによる左室壁内心筋ストレインの定量的評価 | 佐久間 肇 | 医学部附属病院 | 2,080,000 円 | ✓ 補委 科学研究費補助金 |
| 98 | 胃癌腹膜播種形成に関与するエピジェネティック変化の分子機構と治療への応用 | 安田 裕美 | 医学部附属病院 | 1,950,000 円 | ✓ 補委 科学研究費補助金 |
| 99 | 小児難治性炎症性腸疾患の病態に関する二光子レーザー顕微鏡リアルタイムイメージング | 内田 恵一 | 医学部附属病院 | 2,730,000 円 | ✓ 補委 科学研究費補助金 |
| 100 | 潰瘍性大腸炎関連性大腸癌に対する新しい早期診断法有効性の検討と確立に向けた研究 | 荒木 俊光 | 医学部附属病院 | 4,030,000 円 | ✓ 補委 科学研究費補助金 |
| 101 | 難治性副鼻腔炎におけるトランスフォーミング成長因子αの役割と治療法の開発 | 石永 一 | 医学部附属病院 | 1,300,000 円 | ✓ 補委 科学研究費補助金 |
| 102 | 勃起不全治療薬ホスホジエステラーゼ5阻害剤は悪性黒色腫の分子標的となり得るか？ | 清水 香澄 | 医学部附属病院 | 2,210,000 円 | ✓ 補委 科学研究費補助金 |
| 103 | 癌臓器特異的転移とその制御を目指した二光子レーザー顕微鏡下生体内イメージング | 森本 雄貴 | 医学部附属病院 | 2,080,000 円 | ✓ 補委 科学研究費補助金 |
| 104 | PDEの唾液タンパク質促進による誤嚥性肺炎の新しい治療方法の開発 | 村田 琢 | 医学部附属病院 | 2,340,000 円 | ✓ 補委 科学研究費補助金 |
| 105 | 乳房超音波画像診断におけるコンピュータ支援診断システムの開発と有用性の臨床評価 | 中山 良平 | 医学部附属病院 | 1,950,000 円 | ✓ 補委 科学研究費補助金 |
| 106 | 術後早期白血球除去療法によるクローン病術後感染制御法の開発 | 吉山 繁幸 | 医学部附属病院 | 2,860,000 円 | ✓ 補委 科学研究費補助金 |

1 研究費補助等の実績

| No. | 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 |
|-----|--------------------------------------------------|--------|----------------|-------------|-------------------------------------------------|
| 107 | 類洞内トロンピンレセプターの活性制御からみた脂肪肝手術適応拡大を目指した基礎研究 | 浜田 賢司 | 医学部附属病院 | 1,820,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補 科学研究費補助金 |
| 108 | マイクロRNA網羅的解析を用いた胃癌腹膜播種転移の分子機構解明と新規治療法開発 | 奥川 喜永 | 医学部附属病院 | 2,470,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 109 | 薬物療法と交流電磁波暴露を組み合わせた交流電磁場下化学療法の新規治療開発 | 中村 知樹 | 医学部附属病院 | 3,120,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 110 | 細胞外環境制御による高悪性腫瘍治療法および腫瘍治療薬腫瘍取り込み増強法の開発 | 松原 孝夫 | 医学部附属病院 | 3,250,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 111 | 新生児脳における麻酔薬の副作用による神経細胞死の評価と予防法の開発 | 田川 剛志 | 医学部附属病院 | 2,730,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 112 | 組織移植術の新たな展開－二重鎖DNA技術の応用－ | 植村 剛 | 医学部附属病院 | 2,600,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 113 | 網膜光干渉断層画像を対象とした3次元境界面追跡法による疾患部の推定システム | 鶴岡 信治 | 医学部附属病院 眼科 | 2,210,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 114 | 前立腺肥大症治療薬のオフターゲット効果による再燃前立腺癌の新規治療戦略 | 石井 健一朗 | 医学部附属病院 泌尿科 | 2,730,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 115 | 月経前不快気分障害の病態発生に関する前方視的調査研究 | 岡野 禎治 | 保健管理センター | 1,430,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 116 | 小児急性骨髄性白血病(AML)に対する標準的治療法の確立 | 岩本彰太郎 | 医学部附属病院 | 1,000,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 117 | 筋チャンネル病および関連疾患の診断・治療指針作成および新規治療法開発に向けた基盤整備のための研究 | 佐々木良元 | 医学部附属病院 | 1,000,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 118 | 小児造血器腫瘍に対する標準治療と診断確立のための研究 | 出口隆生 | 医学部附属病院 | 500,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |
| 119 | 重症大動脈血管炎に対する新規治療薬の有用性と安全性の検討を目的とした第Ⅲ相オープンラベル試験 | 西川政勝 | 医学部附属病院 | 1,000,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補委 科学研究費補助金 |

- (注) 1. 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
 2. 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
 3. 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合には「委」に「レ」をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2. 論文発表等の実績

| No | 雑誌等名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|----|-------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|------|
| 1 | Ann Oncol. 2011;22:1601-1607 | CD5-positive diffuse large B-cell lymphoma: a retrospective study in 337 patients treated by chemotherapy with or without rituximab. | Miyazaki K | 血液内科 |
| 2 | Journal of Developmental Origins of Health 2011/05 | Branched-chain amino supplemented diet during maternal food restriction prevents developmental hypertension in adult rat offspring. | Kondoh E | 産婦人科 |
| 3 | Current Nutrition & Food Science 2011/05 | Dietary Management of Gestational Diabetes Mellitus. | Kamimoto Y | 産婦人科 |
| 4 | Asian Journal Endoscopic Surgery 2011/05 | A case of thyroid-type papillary carcinoma derived from ovarian mature cystic teratoma, resected by laparoscopic surgery. | K Yoshida | 産婦人科 |
| 5 | Current Nutrition & Food Science 2011/05 | Folate Status and Depressive Symptoms in Reproductive-Age Women. | Sugiyama T | 産婦人科 |
| 6 | ISRN Obstet Gynecol 2011/05 | Assessment of the cardioankle-vascular index in pregnant women complicated with hypertensive disorders. | Sugiyama T | 産婦人科 |
| 7 | J Obstet Gynaecol Res 2011/06 | Maternal antenatal body mass index gains as predictors of large-for-gestational-age infants and cesarean deliveries in Japanese singleton pregnancies. | Sugiyama T | 産婦人科 |
| 8 | J Mol Endocrinol 2011/08 | The inflammatory changes of adipose tissue in late pregnant mice. | Sugiyama T | 産婦人科 |
| 9 | Diagn Cytopathol 2011/08 | Nuclear Characteristics of the Endometrial Cytology:Liquid-Based Versus Conventional Preparation. | Norimatsu Y | 産婦人科 |
| 10 | Diagn Cytopathol 2011/09 | Expression of immunoreactivity of nuclear findings by p53 and cyclin a in endometrial cytology: Comparison with endometrial glandular and stromal breakdown and endometrioid adenocarcinoma grade 1. | Norimatsu Y | 産婦人科 |
| 11 | Int J Clin Oncol 2011/10 | A case of usual (basaloid)-type vulvar intraepithelial neoplasia that failed to respond to imiquimod cream: clinical implications. | Kondoh E | 産婦人科 |
| 12 | Circ J 2011/10 | Pregnancy-associated aortic dilatation or dissection in Japanese women with marfan syndrome. | Ikeda T | 産婦人科 |

| | | | | |
|----|-----------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|---------|
| 13 | JMAJ 2011/10 | Management of Gestational Diabetes Mellitus. | Sugiyama T | 産婦人科 |
| 14 | Acta Physiol (Oxf) 2011/11 | Neonatal exposure to leptin reduces glucose tolerance in adult mice. | Itoh H | 産婦人科 |
| 15 | J Obstet Gynaecol Res 2011/11 | Low-grade appendiceal mucinous neoplasm with disseminated peritoneal adenomucinosis involving the uterus, mimicking primary mucinous endometrial adenocarcinoma: A case report. | Yoshida K | 産婦人科 |
| 16 | Circulation Journal 2012/01 | Guidelines for Indication and Management of Pregnancy and Delivery in Women With Heart Disease (JCS2010) | Ikeda T | 産婦人科 |
| 17 | Int J Hematol 2012/01 | Recombinant activated factor VII (rFVIIa/NovoSeven (R)) in the management of severe postpartum haemorrhage: initial report of a multicentre case series in Japan. | Kobayashi T | 産婦人科 |
| 18 | Circ J75 1472-1475, 2011 | High Plasma Level of Factor VIII: An Important Risk Factor for Venous Thromboembolism. | Mashio Nakamura | 循環器内科 |
| 19 | Circ J75 1742-1726, 2011 | Early Results of Rheolytic Thrombectomy in Patients with Proximal Deep Vein Thrombosis. | Mashio Nakamura | 循環器内科 |
| 20 | Hepatology 54 1892-1893, 2011 | Seven Cases of Autoimmune Hepatitis That Developed after Drug-induced Liver Injury. | Katsuya Shiraki | 消化器肝臓内科 |
| 21 | Am J Roentgenol 197 488-794, 2011 | Radiofrequency Ablation Combined with Chemoembolization: Treatment of Recurrent Hepatocellular Carcinomas after Hepatectomy. | Katsuya Shiraki | 消化器肝臓内科 |
| 22 | Clinical Therapeutics (2011年8月) | Hepatic Drug Interaction Between Tacrolimus and Lansoprazole in a Bone Marrow Transplant Patient Receiving Voriconazole and Harboring CYP2C19 and CYP3A5 Heterozygous Mutations. | 岩本卓也 | 薬剤部 |
| 23 | Annals of Transplantation (2011年10月) | Impact of CYP3A5 genotype of recipients as well as donors on the tacrolimus pharmacokinetics and infectious complications after living-donor liver transplantation for Japanese adult recipients. | 村木優一 | 薬剤部 |
| 24 | Biological & Pharmaceutical Bulletin (2012年1月) | Involvement of Specific Transport System on Uptake of Lactone Form of SN-38 in Human Intestinal Epithelial Cell Line Caco-2. | 奥田真弘 | 薬剤部 |
| 25 | Invest Ophthalmol Vis Sci. 2012 Mar 15;53 (3):1467-72. | Photoreceptor and post-photoreceptor contributions to photopic ERG a-wave | 近藤峰生 | 眼科 |

| | | | | |
|----|--------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|----------|
| 42 | J Dermatol. 2012 Feb;39 (2) :138-40. | Single step modified ink staining for Tzanck test: quick detection of herpetic giant cells in Tzanck smear. | Mizutani H | 皮膚科 |
| 43 | J Dermatol. 2011 Jul;38 (7) :685-92. | Treatment of cloth with a fabric softer ameliorates skin dryness. | Isoda K | 皮膚科 |
| 44 | ClinExpDermatol. 2012 Mar;37 (2) :193-4. doi: | Complete remission of advanced extramammary Paget's disease treated with docetaxel: a case report. | Nakamori R | 皮膚科 |
| 45 | ClinExpDermatol. 2012 Mar;37 (2) :193-4. doi: | Intratumoral injection of OK-432 suppresses metastatic squamous cell carcinoma lesion inducing interferon- γ and tumour necrosis factor- α . | Akeda T | 皮膚科 |
| 46 | Ann Oncol (2011/07) | CD5-positive diffuse large B-cell lymphoma: a retrospective study in 337 patients treated by chemotherapy with or without rituximab. | Miyazaki K | 血液内科 |
| 47 | Transfus Med (2011/12) | Efficiency of diversion of the first aliquot of blood and prestorage leukoreduction for preventing bacteria contamination in red blood cell concentrates assessed using a rapid polymerase chain reaction-based bacterial detection system. | Nakamura A | 検査部 |
| 48 | J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2012 Mar 17. | Proposal for a morphological classification of intraductal papillary neoplasm of the bile duct (IPN-B). | Kato Hiroyuki | 肝胆膵・移植外科 |
| 49 | Transplant Proc. 2012 Mar | Intracellular interferon- γ staining analysis of donor-specific T-cell responses in liver transplant recipients. | Okanami Yuko | 肝胆膵・移植外科 |
| 50 | Transplant Proc. 2012 Mar | Postoperative liver dysfunction in living donors after left-sided graft hepatectomy: portal venous occlusion of the medial segment after lateral segmentectomy and hepatic venous congestion after left lobe hepatectomy. | Kumamoto Koji | 肝胆膵・移植外科 |
| 51 | J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2012 Mar | Stented pancreaticojejunostomy (with video). | Azumi Yoshinori | 肝胆膵・移植外科 |
| 52 | Pancreas. 2012 Jan | Impact of histological response after neoadjuvant chemoradiotherapy on recurrence-free survival in UICC-T3 pancreatic adenocarcinoma but not in UICC-T4. | Murata Yasuhiro | 肝胆膵・移植外科 |
| 53 | J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2011 Sep 7 | Human equilibrative nucleoside transporter 1 expression is a strong independent prognostic factor in UICC T3-T4 pancreatic cancer patients treated | Murata Yasuhiro | 肝胆膵・移植外科 |

| | | | | |
|----|------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|------------|
| | | in rhodopsin P347L transgenic rabbits. | | |
| 26 | Mol Ther. 2012 Jan;20 (1):101-8. doi: 10.1038/mt.2011.212. | Short-interfering RNAs induce retinal degeneration via TLR3 and IRF3. | 近藤峰生 | 眼科 |
| 27 | J Ophthalmol. 2011;2011:652904. | Retrolbulbar hemodynamic effects of nipradilol in normal and normal-tension glaucoma eyes. | 杉本昌彦 | 眼科 |
| 28 | J Clin Exp Hematop. (2011年11月) | Diagnostic criteria and laboratory tests for disseminated intravascular coagulation. | 兼児敏浩 | 医療安全・感染管理部 |
| 29 | J Spinal Disord Tech (2011年11月) | Porosity of β -Tricalcium Phosphate Affects the Results of Lumbar Posterolateral Fusion. | Kasai Y. | 脊椎外科・医用工学 |
| 30 | Eur J Orthop Surg Traumatol (2012年3月) | Characteristic Personality of Orthopaedic Outpatients. | Kasai Y. | 脊椎外科・医用工学 |
| 31 | Breast Cancer 2011 Jun 28 Epub ahead of print | Long-term results of breast volume replacement using an inframammary adipofascial flap after breast-conserving surgery | Tomoko Ogawa | 乳腺外科 |
| 32 | Plastic Surg Int 2011:359842 Epub 2011 Sep 20 | Breast-volume displacement using an extended glandular flap for small dense breasts | Tomoko Ogawa | 乳腺外科 |
| 33 | 乳癌の臨床 26 (6) 721-726, 2011 | Doughnut Mastopexy (Round Block Technique) を応用した乳房部分切除を行い良好な整容性を得た境界型葉状腫瘍の1例 | 小川朋子 | 乳腺外科 |
| 34 | 乳癌の臨床 26 (5) 635-640, 2011 | 対側乳房手術を必要としない乳房縮小術を応用した乳房温存手術 | 小川朋子 | 乳腺外科 |
| 35 | 乳癌の臨床 26 (6) 741-744, 2011 | 診断治療の工夫 単純乳房切除時の皮膚切開 INF-based incisionの有用性 | 小川朋子 | 乳腺外科 |
| 36 | 乳癌の臨床 26 (3) 335-340, 2011 | 乳房温存手術におけるoncoplastic surgery 広範乳腺脂肪弁による乳房形成術 | 小川朋子 | 乳腺外科 |
| 37 | 乳癌の臨床26 (1) 109-112, 2011 | 同時性両側乳癌に対し傍乳三日月切開乳頭乳輪温存皮下乳腺全摘術を施行した2例 | 小川朋子 | 乳腺外科 |
| 38 | PEPARS 52 34-40, 2011 | 乳房再建術 私の方法 乳房下溝線部脂肪筋膜弁による再建法 | 小川朋子 | 乳腺外科 |
| 39 | PLoS One. 2012;7 (2):e31465. Epub 2012 Feb 16. | Calcineurin inhibitors suppress cytokine production from memory T cells and differentiation of naive T cells into cytokine-producing mature T cells. | Tsuda K | 皮膚科 |
| 40 | PLoS One. 2011;6 (12):e29020. Epub 2011 Dec 21. | Intratympanic injection of Propionibacterium acnes suppresses malignant melanoma by enhancing Th1 immune responses. | Tsuda K | 皮膚科 |
| 41 | J Dermatol. 2011 Nov;38 (11):1089-92. | Keratin and filaggrin expression in comedonal Darier's disease. | Kurokawa I | 皮膚科 |

| | | | | |
|----|-------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|-----------------------|
| | | with preoperative gemcitabine-based chemoradiotherapy. | | |
| 54 | SurgEndosc. 2011 Jul 27 | Risk for local recurrence of early gastric cancer treated with piecemeal endoscopic mucosal resection during a 10-year follow-up period. | Horiki Noriyuki | 光学医療診療部 |
| 55 | Circ J. 2011 Aug 25 | Atherosclerosis amelioration by moderate alcohol consumption is associated with increased circulating levels of stromal cell-derived factor-1. | Paloma Gil-Bernabe | 糖尿病内科 |
| 56 | Mol Med. 2012 Jan | Identification of treatment efficacy-related host factors in chronic hepatitis C by ProteinChip serum analysis. | Fujita Naoki | 消化器・肝臓内科 |
| 57 | Hepato Res. 2011 Apr | Effect of suppressor of cytokine signaling on hepcidin production in hepatitis C virus replicon cells. | Miyachi Hirohide | 消化器・肝臓内科 |
| 58 | Am J Respir Crit Care Med. 2012 Jan 1 | Inhibition of allergic bronchial asthma by thrombomodulin is mediated by dendritic cells. | Takagi Takehiro | 呼吸器内科 |
| 59 | Lung. 2011 Oct 25 | Role of Thrombin-Activatable Fibrinolysis Inhibitor in Allergic Bronchial Asthma. | Fujiwara Atsushi | 呼吸器内科 |
| 60 | Am J Respir Cell Mol Biol. 2011 Oct 27 | Development and Preclinical Efficacy of Novel Transforming Growth Factor- β 1 siRNAs for Pulmonary Fibrosis. | Corina N. D' Alessandro-Gabazza | 呼吸器内科 |
| 61 | Int J Clin Oncol. 2011 Oct 22 | Computed tomography fluoroscopy-guided radiofrequency ablation following intra-arterial iodized-oil injection for hepatocellular carcinomas invisible on ultrasonographic images. | Takaki Haruyuki | IVR科 (医学看護学教育センター) |
| 62 | Diabetes Res Clin Pract. 2011 Oct 17 | Visceral fat volume predicts new-onset type 2 diabetes in patients with chronic hepatitis C. | Iwasa Motoh | 消化器・肝臓内科 |
| 63 | Int J Hematol 2011 Aug | Flow cytometric analysis of de novo acute lymphoblastic leukemia in childhood: report from the Japanese Pediatric leukemia / Lymphoma Study Group | 岩本 彰太郎 | 小児科 |
| 64 | Clin Exp Immunol 2011 Dec | The effect of azithromycin on the maturation and function of murine bone marrow-derived dendritic cells. | 岩本 彰太郎 | 小児科 |
| 65 | Haemophilia 2012 Jan | A case of three-year-old boy with severe haemophilia A on prophylaxis identified with a chronic subdural haematoma 2 years after the first episode of acute subdural bleeding. | 駒田 美弘 | 小児科 |
| 66 | 体外循環技術 2011年38号4号 | MUF-DUF可能な小児用半閉塞回路～低侵襲手術の実現に向けて～ | 谷 誠二 | 臨床工学部 |

| | | | | |
|----|---------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|----------|
| 67 | 体外循環技術 2012年39刊12号 | 血管拡張薬としてのセボフラン～小児体外循環中の使用経験～ | 谷 誠二 | 臨床工学部 |
| 68 | 体外循環技術 2012年39刊12号 | CHDFを併設することで良好な経過を得た小児ECUMO補助の1例 | 西川 祐策 | 臨床工学部 |
| 69 | Asian J OMFS 23 204-206 (2011) | Chemical burn of the tongue resulting from improper use of oral bisphosphonate. | T. Tagawa | 歯科口腔外科 |
| 70 | Jpa J Oral Diag/Oral Med 24 269-271 (2011) | Two Cases of Glossodynia with Strong Sharp Pain Maybe Caused by Iron Deficiency Anemia. | T. Tagawa | 歯科口腔外科 |
| 71 | Jpa J Oral Diag/Oral Med 24 272-274 (2011) | Mucocele of the Lower Lip in an Infant :A Case Report. | T. Tagawa | 歯科口腔外科 |
| 72 | J. Maxillofac. Oral Surg intern. (2011) | A case of Carcinoma EX Pleomorphic Adenoma in the Buccal Mucosa : Review of the Literature. | T. Tagawa | 歯科口腔外科 |
| 73 | Contemporary Clinical Dentistry 21 234-236 (2011) | A case of Desmoplastic Ameloblastoma occupying maxillary sinus. | T. Tagawa | 歯科口腔外科 |
| 74 | Int J OMFS 40 (10) 1212 (2011) | Antitumor Activity of Cationic Liposome-mediated Bax mRNA Transfer in KB cells by systemic administration. | T. Tagawa | 歯科口腔外科 |
| 75 | 口腔組織培養学会誌 21 (1) 11-12 (2011) | Phosphodiesterase4阻害剤Denbufyllineによる悪性黒色腫細胞への影響 | T. Tagawa | 歯科口腔外科 |
| 76 | Surg Today. 2011;41:230-6 | Effect of a prostaglandin I (2) analog on the expression of thrombomodulin in liver and spleen endothelial cells after an extensive hepatectomy. | Usui M | 肝胆臓・移植外科 |
| 77 | Surg Today. 2012;42:482-8 | Pancreaticoduodenectomy with resection of the splenic artery and splenectomy for pancreatic double cancers after total gastrectomy. Preservation of the pancreatic function via the blood supply from the posterior epiploic artery: report of a case | Mizuno S | 肝胆臓・移植外科 |
| 78 | J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2011;18:226-32 | Monitoring peripheral blood CD4+ adenosine triphosphate activity after living donor liver transplantation: impact of combination assays of immune function and CYP3A5 genotype | Mizuno S | 肝胆臓・移植外科 |
| 79 | Transplant Proc. 2012 Mar;44 (2) :356-9 | Living donor liver transplantation for the patients with portal vein thrombosis: use of an interpositional venous graft passed posteriorly to the pancreatic parenchyma without using jump graft. | Mizuno S | 肝胆臓・移植外科 |

| | | | | |
|----|----------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|----------|
| 80 | Transpl Int. 2011 Jul;24 (7):e57-8 | Lethal hepatic infarction following plasma exchange in living donor liver transplant patients. | Mizuno S | 肝胆臓・移植外科 |
| 81 | 日本放射線技術学会雑誌 (2011. 6) | X線CT装置における植込み型ペースメーカーの部分的電気リセットについての検討 | 牛島 貴弘 | 中央放射線部 |
| 82 | Journal of Cellular and Molecular Medicine Accepted manuscript online (2011. 12) | Erythropoietin attenuates the sequels of ischemic spinal cord injury with enhanced recruitment of CD34+ cells in mice | Koji Hirano | 胸部外科 |
| 83 | Lung cancer (2011) | Assesment of factors influencing FDG uptake in non-small cell lung cancer on PET/CT by investigating histological difference in expression of glucose transporters 1 and 3 and tumor size | Suzama N | 胸部外科 |
| 84 | Cardiovasc Intervent Radiol | Lung radiofrequency ablation for the treatment of unresectable recurrent non-small cell lung cancer after surgical intervention | Kodama H | 胸部外科 |
| 85 | Annals of Vascular Diseases (2011. 4) | Improve Morbidity and Mortality in Coronary Artery Graft Surgery for Severe Atherosclerosis | Kanemitsu S | 胸部外科 |
| 86 | Lung cancer (2011) | Assesment of factors influencing FDG uptake in non-small cell lung cancer after surgical intervention | Kodama H | 胸部外科 |
| 87 | Ann Vasc Surg (2011) | Basic data related to surgical infringuinal revascularization procedures: a twenty year update | Ziegler KR | 胸部外科 |
| 88 | J Surg Res (2011) | Age-related Notch-4 quiescence is associated with altered wall remodeling during vein graft adaptation | Kondo Y | 胸部外科 |
| 89 | Cancer (2011) | Radiofrequency ablation as an adjunct to systemic chemotherapy for colorectal pulmonary metastases | Takao M | 胸部外科 |
| 90 | J Vasc Surg (2011) | Letters to the Editor, Reply | Kanemitsu S | 胸部外科 |
| 91 | Cancer (2011) | Radiofrequency ablation as an adjunct to systemic chemotherapy for colorectal pulmonary metastases | Takao M | 胸部外科 |
| 92 | J Vasc Surg (2011) | Molecular diagnosis of nonaneurysmal infectious aortitis | Kanemitsu S | 胸部外科 |
| 93 | 日本呼吸器外科学会雑誌 (2011) | 麻酔覚醒遅延で発見されたamber-Baton myathenesis syndromrを伴う小細胞肺癌の1例 | 天白 宏典 | 胸部外科 |
| 94 | 日血外会誌 (2011) | 破裂を伴った急性B型大動脈解離に対して頸動脈再建およびステントグラフト内挿術を行い救命し得た1例 | 矢田 真希 | 胸部外科 |

| | | | | |
|-----|-----------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|--------|
| 95 | 日本胸部臨床 (2011) | 縦隔リンパ節転移を友胆阿肺癌に対する外科治療を巡って。2. 外科治療、2) 10年間の手術成績を振り返って | 安達 勝利 | 胸部外科 |
| 96 | 日本胸部臨床 (2011) | 肺癌術後に気管支断端瘻・胸部をきたし大網被覆充填術を施行した1例 | 安達 勝利 | 胸部外科 |
| 97 | 胸部外科 (2011) | 意識障害で発症したStanford A型急性大動脈解離の1例 | 小津 泰久 | 胸部外科 |
| 98 | 腎がん・膀胱がん 改訂版第2版 (201, 5) | 手術 (3) 腎温存: ラジオ波熱凝固 | 竹田 寛 | 腎泌尿器外科 |
| 99 | Japanese Journal of Endourology 24 (2011. 7) | ミニマム創内視鏡下根治的腎摘出術 (MIES-RN) における満足度、QOL評価: 特に術後創部痛と各種因子との関わりについて | 杉村 芳樹 | 腎泌尿器外科 |
| 100 | Familial Cancer 10 (2011. 12) | Management of renal tumors in Von Hippel-Lindau disease by percutaneous CT fluoroscopic guided radiofrequency ablation: preliminary results | Kiminobu Arima | 腎泌尿器外科 |
| 101 | The Nishinohon journal of urology (2011. 12) | The impact of body mass index and subcutaneous fat volume on the need for extended incision during minimum incision on endoscopic surgery | Kiminobu Arima | 腎泌尿器外科 |
| 102 | Japanese Journal of Endourology 24 (2011. 11) | 腎腫瘍に対するCTガイド下針生検組織の病理診断における、ラジオ波照射術 (RFA) もしくは動脈塞栓術 (TAE) の影響 | 杉村 芳樹 | 腎泌尿器外科 |
| 103 | Acta Orthop Belg (2012, 2) | Failure mechanism of a constrained liner: a case report | Sudo A | 整形外科 |
| 104 | Int j Hematol (2011, 2) | Increased fibrinolysis increases bleeding in orthopedic patients receiving prothylactic fondaparinux | Sudo A | 整形外科 |
| 105 | Anticancer Rea (2011, 12) | Acridine orange inhibits pulmonary metastasis of mouse osteosarcoma | Sudo A | 整形外科 |
| 106 | World Surg Oncol (2011. 12) | The adverse effect of an unplanned surgical excision of foot soft tissue sarcoma | Sudo A | 整形外科 |
| 107 | Foot Ankle int (2011, 9) | Recurrent ankle equinus deformity due to intramuscular hemangioma of the gastrocnemius: case report | Sudo A | 整形外科 |
| 108 | Int J Hematol (2011. 10) | Monitoring for anti-Xa activity for prophylactic administration of Fondaparinux in patients with artificial joint replacement | Sudo A | 整形外科 |
| 109 | Orthopedics (2011. 9) | Recurrent hemarthrosis after unicompartmental knee arthroplasty | Sudo A | 整形外科 |
| 110 | Clin Exp Metastasis (2011. 12) | Clinical impact of the tumor volume doubling time on sarcoma patients with lung metastases | Sudo A | 整形外科 |

| | | | | |
|-----|-----------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|---------------|
| 111 | Cancer (2012, 2) | Clinical significance of pretreatment serum C-reactive protein level in soft tissue sarcoma | Sudo A | 整形外科 |
| 112 | J Surg Oncol (2011, 12) | The symptom-to-diagnosis delay in soft tissue sarcoma influence the overall survival and the development of distant metastasis | Sudo A | 整形外科 |
| 113 | J Arthroplasty (2012, 3) | Pseudotumor with dominant B-lymphocyte infiltration after metal-on-metal total hip arthroplasty with a modular cup | Sudo A | 整形外科 |
| 114 | Mod Rheumatol (2012, 2) | Which subgroup of rheumatoid arthritis patients benefits from switching to tocilizumab versus etanercept after previous infliximab failure? A retrospective study | Sudo A | 整形外科 |
| 115 | Biochem Biophys Res Commun (2011, 4) | TNF inhibitor suppresses bone metastasis in a breast cancer cell line | Sudo A | 整形外科 |
| 116 | Int J Clin Oncol (2011, 4) | Anovel hyperthermia treatment for bone metastases using magnetic materials | Sudo A | 整形外科 |
| 117 | Am J Sports Med (2011, 4) | Functional recovery of the donor knee after autologous osteochondral transplantation for capitellar osteochondritis dissecans | Sudo A | 整形外科 |
| 118 | Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc (2011, 6) | Minimally invasive total knee arthroplasty: comparison of jig-based technique versus computer navigation for clinical and alignment outcome | Sudo A | 整形外科 |
| 119 | Int Orthop (2011, 6) | Risk factors for the incidence and progression of radiographic osteoarthritis of the knee among Japanese | Sudo A | 整形外科 |
| 120 | Micrisurgery (2011, 10) | Pediced vastus lateralis musculofascial flap as a new technique for repairing rectourethral fistula after radical prostatectomy | Sudo A | 整形外科 |
| 121 | Turk Neurosurg (2012, 4) | Evaluation of cerebral arteriovenous malformations using image fusion combining three-dimensional digital subtraction angiography with magnetic resonance imaging | Suzuki H | 脳神経外科 放射線科 |
| 122 | Neurobiol Dis (2012, 4) | Imatinib mesylate prevents cerebral vasospasm after subarachnoid hemorrhage via inhibiting tenascin-C expression in rats | Suzuki H | 脳神経外科 |
| 123 | World Neurosurg (2011, 11) | Determinants of poor outcome after aneurysmal subarachnoid hemorrhage when both clipping and coiling are available: Prospective Registry of Subarachnoid Aneurysms Treatment (PRESAT) in Japan | Suzuki H | 脳神経外科 |

| | | | | |
|-----|------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|-------|
| 124 | J Neurosurg Anesthesiol (2011. 10) | Cerebrospinal fluid tenascin-C in cerebral vasospasm after aneurismal subarachnoid hemorrhage | Suzuki H | 脳神経外科 |
| 125 | Acta Neurochir Suppl (2011) | Effets of recombinant osteopontin on blood-brain barrier disruption after subarachnoid hemorrhage in rats | Suzuki H | 脳神経外科 |
| 126 | Acta Neurochir Suppl (2011) | Subarachnoid hemorrhage causes pulmonary endothelial cell apoptosis and neurogenic pulmonary edema in mice | Suzuki H | 脳神経外科 |

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

診療並びに病院の管理に関する諸記録の管理方法

| | |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 管理責任者氏名 | 病院長 竹田 寛 |
| 管理担当者氏名 | 中央放射線部長 佐久間 肇 薬剤部長 奥田 真弘 医療安全・感染管理部長 富本 秀和 医療福祉支援センター長 内田 恵一 事務部総務課長 山田 浩之 事務部医療サービス課長 田中 章 |

| | 保管場所 | 管理方法 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 診療に関する諸記録 病院日誌, 各科診療日誌, 処方せん, 手術記録, 看護記録, 検査所見記録, エックス線写真, 紹介状, 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院治療計画書 | 各診療科 | 全科電子カルテを導入 医療情報管理部にて管理。 紙カルテは、 外来:一患者各診療科カルテ 入院:一患者共通カルテ方式をとっている。 紙カルテは、 ①外来患者は外来カルテ庫 ②入院患者は入院中は各科病棟、退院後は病歴室に保管。 |
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 従業者を明らかにする帳簿 | 総務課 |
| | 高度医療の提供の実績 | 医療サービス課 |
| | 高度医療技術の開発及び評価の実績 | 医療サービス課 |
| | 高度医療の研修の実績 | 総務課 |
| | 閲覧実績 | 総務課 |
| | 紹介患者に対する医療提供の実績 | 医療サービス課 |
| | 入院患者数、外来患者数及び調剤の数を明らかにする帳簿 | 医療サービス課、 薬剤部 |
| | 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 | 医療サービス課、安全管理・感染管理部 |
| | 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況 | 総務課、医療サービス課、 医療安全・感染管理部 |
| | 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 | 総務課、医療サービス課、 医療安全・感染管理部 |
| 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況 | 医療サービス課、医療安全・感染管理部 | |
| 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況 | 医療サービス課、医療安全・感染管理部 | |
| 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 | 総務課 | |
| 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況 | 医療サービス課、医療安全・感染管理部 | |
| 当該病院内に患者から安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 | 医療サービス課、医療福祉支援センター | |

| | | 保管場所 | 分類方法 |
|---------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|----------------|------|
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保状況 | | |
| | 院内感染のための指針の策定状況 | 総務課 | |
| | 院内感染のための委員会の開催状況 | 総務課 | |
| | 従事者に対する院内感染のための研修の実施状況 | 総務課 | |
| | 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況 | 総務課 | |
| | 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況 | 総務課 | |
| | 従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 | 総務課 薬剤部 | |
| | 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 | 薬剤部 | |
| | 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | 薬剤部 | |
| | 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況 | 総務課 | |
| | 従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 | 総務課 臨床工学部 | |
| | 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 | 経営管理課 臨床工学部 | |
| 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | 臨床工学部 | | |

(注) 「診療に関する諸記録」欄には個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療の提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

| | |
|-------------|-----------------|
| 閲覧責任者氏名 | 病院長 竹田 寛 |
| 閲覧担当者氏名 | 事務部総務課長 山田 浩之 |
| 閲覧の求めに応じる場所 | 病態医科学研究棟2階 大会議室 |

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

| | | |
|-----------|--------|------|
| 前年度の総閲覧件数 | 延 | 0件 |
| 閲覧者別 | 医師 | 延 0件 |
| | 歯科医師 | 延 0件 |
| | 国 | 延 0件 |
| | 地方公共団体 | 延 0件 |

○紹介患者に対する医療の提供の実績

| | | | |
|------|-------------------------|---------|----------------------|
| 紹介率 | 76.2% | 算定期間 | 平成23年4月1日～平成24年3月31日 |
| 算出根拠 | A : 紹介患者の数 | 11,074人 | |
| | B : 他の病院又は診療所に紹介した患者の数 | 8,120人 | |
| | C : 救急用自動車によって搬入された患者の数 | 611人 | |
| | D : 初診の患者の数 | 17,884人 | |

(注) 1 「紹介率」欄はA、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dはそれぞれの延べ数を記入すること。

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保状況

| | |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|
| ① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| <p>・指針の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○医療に係る安全管理のための指針(別添資料 1) ○安全管理に係る組織図(別添資料 2) ○医療問題対策委員会内規(別添資料 3) ○医療安全・感染管理部規程(別添資料 4) ○重大インシデント発生時の院内連絡体制(別添資料 5) ○医療の質・倫理検討委員会規程(別紙資料 6) | |
| ② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況 | 年 39 回 |
| <p>・活動の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○医療問題対策委員会 (年11回) 医療法制に関する事項、医療事故の予防に関する事項、医療事故発生時の対策に関する事項、医療紛争の処理に関する事項及び医療訴訟に関する事項の審議を行う。 ○安全管理部会議 (年 11回) インシデントレポートの収集と管理、報告された事故の原因や状況の分析、原因分析の結果を踏まえて事故発生の防止策と事故発生後の対応策を講じ、必要な情報を現場のスタッフにフィードバックする。 また、医療事故防止に係る病院内の巡視・点検・評価に関すること、医療事故防止にかかわる業務改善の提言・指導に関すること、安全管理に係わる教育・研修・啓発に関すること、医療事故防止対策マニュアルに関すること、ヒヤリハットニュースの発行に関すること、リスクマネージャー会議に関すること。 ○リスクマネージャー会議 (年 6回) 医療問題対策委員会及び安全管理室会議において決定した事故防止策・対応策等の必要な情報を医療現場に周知徹底さ ○医療の質・倫理検討委員会 (年 11回) 死亡例及び重症合併症例の検討、先端医療、終末期医療、診療拒否、移植医療、その他の倫理的問題について審議する。 | |
| ③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 | 年 4 回 |
| <p>・研修の主な内容</p> <p>従業者の医療安全に関する意識向上を図っている。 (全職員対象とは別に新規採用者のみを対象とした医療安全研修会及び全職員を対象とした医療事故被害者による講演等)</p> | |
| ④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況 | |
| <p>・医療機関内における事故報告等の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ヒヤリハットニュースを発行(月1回及び必要に応じて随時)し、リスクマネージャー会議を開催(年6回)することにより、リスクマネージャーを通じて、インシデントレポートから積極的に収集した情報並びに医療問題対策委員会、医療の質・倫理検討委員会及び安全管理部会議において決定した事故防止策・対応策等の必要な情報を医療現場に周知徹底する。 ○各医療現場のリスクマネージャーにより、医療事故の原因及び防止方法並びに医療体制の改善方法について独自に検討及び提言を行う。 ○各医療現場のリスクマネージャーにより、独自に事故防止のための研修会及び勉強会を開き、医療事故防止のための啓蒙活動を行う。 | |
| ⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況 | <input checked="" type="checkbox"/> 有(2名) <input type="checkbox"/> 無 |
| ⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 | <input checked="" type="checkbox"/> 有(2名) <input type="checkbox"/> 無 |
| ⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| <p>・所属職員: 専任(5)名 兼任(11)名</p> <p>・活動の主な内容</p> <p>医療安全・感染管理部(危機管理委員会として平成12年6月12日設置、平成13年6月19日安全管理委員会に委員会名変更、平成14年4月1日同委員会を廃止し、安全管理室を設置、平成19年1月1日安全管理部に改組、平成22年4月1日同部を廃止し、感染制御部と合併し、医療安全・感染管理部に改組) 病院内における医療事故の防止及び医療の安全性の確保のため、安全且つ適切な医療体制を確立する。</p> | |
| ⑧ 当該病院内に患者から安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |

院内感染のための体制の確保に係る措置

| | | | | | | | | | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|----------------------|---------------------|-----------------|--------------------|-------------------|------------------|----------------|--|
| ① 院内感染のための指針の策定状況 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 | | | | | | | | |
| <p>・指針の主な内容</p> <table border="0"><tr><td>1. 院内感染対策に関する基本的な考え方</td><td>2. 委員会等の組織に関する基本的事項</td></tr><tr><td>3. 職員研修に関する基本方針</td><td>4. 発生状況の報告に関する基本方針</td></tr><tr><td>5. 感染発生対応に関する基本方針</td><td>6. 指針の閲覧に関する基本方針</td></tr><tr><td>7. その他の必要な基本方針</td><td></td></tr></table> | | 1. 院内感染対策に関する基本的な考え方 | 2. 委員会等の組織に関する基本的事項 | 3. 職員研修に関する基本方針 | 4. 発生状況の報告に関する基本方針 | 5. 感染発生対応に関する基本方針 | 6. 指針の閲覧に関する基本方針 | 7. その他の必要な基本方針 | |
| 1. 院内感染対策に関する基本的な考え方 | 2. 委員会等の組織に関する基本的事項 | | | | | | | | |
| 3. 職員研修に関する基本方針 | 4. 発生状況の報告に関する基本方針 | | | | | | | | |
| 5. 感染発生対応に関する基本方針 | 6. 指針の閲覧に関する基本方針 | | | | | | | | |
| 7. その他の必要な基本方針 | | | | | | | | | |
| ② 院内感染のための委員会の開催状況 | 年 11 回 | | | | | | | | |
| <p>・活動の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none">1. 院内感染の実態の把握, 薬剤耐性の動向その他院内感染のための調査, 研究を行う。2. 感染症患者及び健康保菌者等の取扱い, 滅菌及び消毒, 清潔区域及び医療材料の清潔保持その他院内感染防止のための予防対策を行う。3. 院内感染防止についての指針の作成及び職員の教育, 指導を行う。 | | | | | | | | | |
| ③ 従事者に対する院内感染のための研修の実施状況 | 年 2 回 | | | | | | | | |
| <p>・研修の主な内容</p> <p>従業者の感染管理に関する知識向上を図っている。(院内感染対策、職員手帳、HIV感染症 等)</p> | | | | | | | | | |
| ④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況 | | | | | | | | | |
| <p>・病院における発生状況の報告等の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容</p> <p>地域の感染対策強化を図るために, 感染対策セミナーを行っている。(月1回程度)</p> | | | | | | | | | |

医薬品の使用に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| ① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| ② 従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 ・活動の主な内容 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書について 麻薬の取扱いについて | 年 2 回 (同一内容で複数回実施) |
| ③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 ・手順書の作成 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ・業務の主な内容 1. 医薬品の採用・購入に関する事項 2. 医薬品の管理に関する事項(麻薬等の管理方法等) 3. 患者の持参薬歴情報の収集方法、処方箋の記載方法 4. 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 5. 医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項 6. 他施設(病院等、薬局等)との関係に関する事項 | 年 1 回 |
| ④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 ・医薬品に係る情報の収集の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ・その他の改善のための方策の主な内容 【収集方法】 医薬品に係る添付文書等の収集、メーカー等から収集、インターネット、文献等からの収集 【周知方法等】 薬剤部発行の院内医薬品情報誌に掲載し周知、オンライン医薬品集に「お知らせ」として掲載し周知、 薬剤部ホームページへの掲載、必要に応じて院内メール又は文書等の通知にて周知、病棟担当薬剤師 がカンファレンス等にて説明し周知 【改善方法等】 業務実施状況を確認し、必要に応じて手順書の改定を行う 院内で発生した副作用を収集する体制の整備 | |

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| ① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| ② 従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 ・活動の主な内容 1. 有効性、安全性に関する事項 2. 使用方法に関する事項 3. 保守点検に関する事項 4. 不具合が発生した場合の対応に関する事項 5. 使用に関して特に法令上遵守すべき事項 | 年 2 回 |
| ③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 ・手順書の作成 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ・保守点検の主な内容 1. メーカー提供の点検マニュアル及びメーカー指示に従い実施 2. 日常点検を実施し、異常があればメーカー点検・修理 | 年 回 |
| ④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 ・医療機器に係る情報の収集の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ・その他の改善のための方策の主な内容 1. 装置毎に添付文書・保守点検マニュアル及び安全性情報を冊子として配布 2. 管理、機器に関わる者に関してはWG等を設置し周知徹底を行う 3. 医薬品医療機器総合機構への病院ホームページ及びME室ホームページからのリンク 4. ME室ホームページからのマニュアル等の閲覧システム 5. 年4回発行のME室新聞及び看護師と連携した医療機器中央管理委員会(年6回開催)にて周知 | |

三重大学医学部附属病院医療に係る安全管理のための指針

1) 安全管理に関する基本的な考え方

安心できる医療環境のもとで良質で高度な医療を適切に提供することは三重大学医学部附属病院の理念であり、その根幹をなすものは「安全性」の確保である。未然に事故を防止することは医療機関の責務であり、特定機能病院には一般病院以上に安全管理体制の整備・充実が求められている。

このために、安全管理に関する院内の責任体制を明確にし、「良質で高度な医療の提供」に際して求められる安全確保のための指針を制定する。

2) 安全管理のための委員会、その他医療機関内の組織に関する基本的事項

1. 医療に係る安全管理体制の最高決定機関として安全管理に関わる部門の責任者等で構成する三重大学医学部附属病院医療問題対策委員会（以下「医療問題対策委員会」という。）を置き、病院長を委員長とし委員で構成する委員会を月1回以上開催する。
医療問題対策委員会に関し必要な事項は、三重大学医学部附属病院医療問題対策委員会内規に定める。
2. 安全管理推進の確保のため、ゼネラルリスクマネージャー及びその他各部門の安全管理責任者等で構成する三重大学医学部附属病院医療安全・感染管理部（以下「医療安全・感染管理部」という。）を置く。部員で構成する医療安全会議を月2回以上開催する。
医療安全・感染管理部に関し必要な事項は、三重大学医学部附属病院医療安全・感染管理部内規に定める。
3. 医療に係る安全管理を専任で行う者としてゼネラルリスクマネージャーを置く。
ゼネラルリスクマネージャーの業務等については、三重大学医学部附属病院医療安全・感染管理部内規に定める。
4. 医療現場での事故防止、安全管理の中心的な役割を担う者として、院内各部門にリスクマネージャーを置く。
5. 医療の現場で具体的な安全対策を推進し、安全性の高い医療を提供するために医療安全・感染管理部の下にリスクマネージャー会議を定期的で開催する。
リスクマネージャー会議に関し必要な事項は三重大学医学部附属病院医療安全・感染管理部内規に定める。
6. 医薬品の安全使用のための責任者として、医薬品安全管理責任者を配置する。
7. 医療機器の安全使用のための責任者として、医療機器安全管理責任者を配置する。
8. その他本院における医療に係る安全管理体制に関し必要な事項は三重大学医学部附属病院医療安全・感染管理部内規に定める。

3) 安全管理のための職員研修に関する基本方針

1. 医療の安全管理のための職員研修（以下「研修」という。）は全職員を対象として年2回以上開催する。必要に応じ医療に係る安全管理のための基本的考え方及び具体的方策について職員に周知徹底を行うことで個々の職員の安全に対する意識、安全に業務を遂行するための技能やチームの一員としての意識向上を図る。
2. 研修参加者の学習達成の評価とともに具体的・現実的な目標を定め、目標達成の観点から評価する。
3. 研修の実施内容や参加状況を記録に残し、それらの記録の積み重ねから研修の質的充実を図る。

4. その他研修に関し必要な事項は、医療安全・感染管理部で定める。

4) 医療機関内における事故報告書等の医療に係る安全確保のための改善策に関する基本方針

医療安全・感染管理部は、あらかじめ定められた手順により報告されたインシデントや医療事故及び他機関での医療の安全管理に関する事例の収集・分析に基づき、医療の安全管理の問題点を把握し病院全体の医療の安全管理や改善策の具体的な実践を指導監督するとともに、その実施状況を評価する。

5) 医療事故等発生の対応に関する基本方針

1. 本院において医療事故が発生した場合、当事者は必要と考えられる医療上の最善の処置を講じ、患者及びご家族等に誠実で適切な対応をするとともに、あらかじめ定められた手順により速やかに病院長に報告しなければならない。
2. 医療安全会議で医療事故と判定された場合の報告は、診療録や看護記録に基づき作成するものとする。
3. 医療事故等発生時の報告・対応に関し必要な事項は別に定める。

6) 患者等に対する当該方針の閲覧に関する基本方針

患者等が指針の閲覧を希望する場合は、閲覧に供する。

7) 患者からの相談への対応に関する指針

患者等から苦情、相談に適切に応じる体制を確保するため三重大学医学部附属病院医療福祉支援センター（以下「支援センター」という。）を設置し、その活動を本院の安全対策等の見直しに活用するものとする。支援センターの活動の趣旨、設置場所、担当者及びその責任者、対応時間等については、院内に明示し周知を図る。

その他、支援センターの設置に関し必要な事項は三重大学医学部附属病院医療福祉支援センター規程に定める。

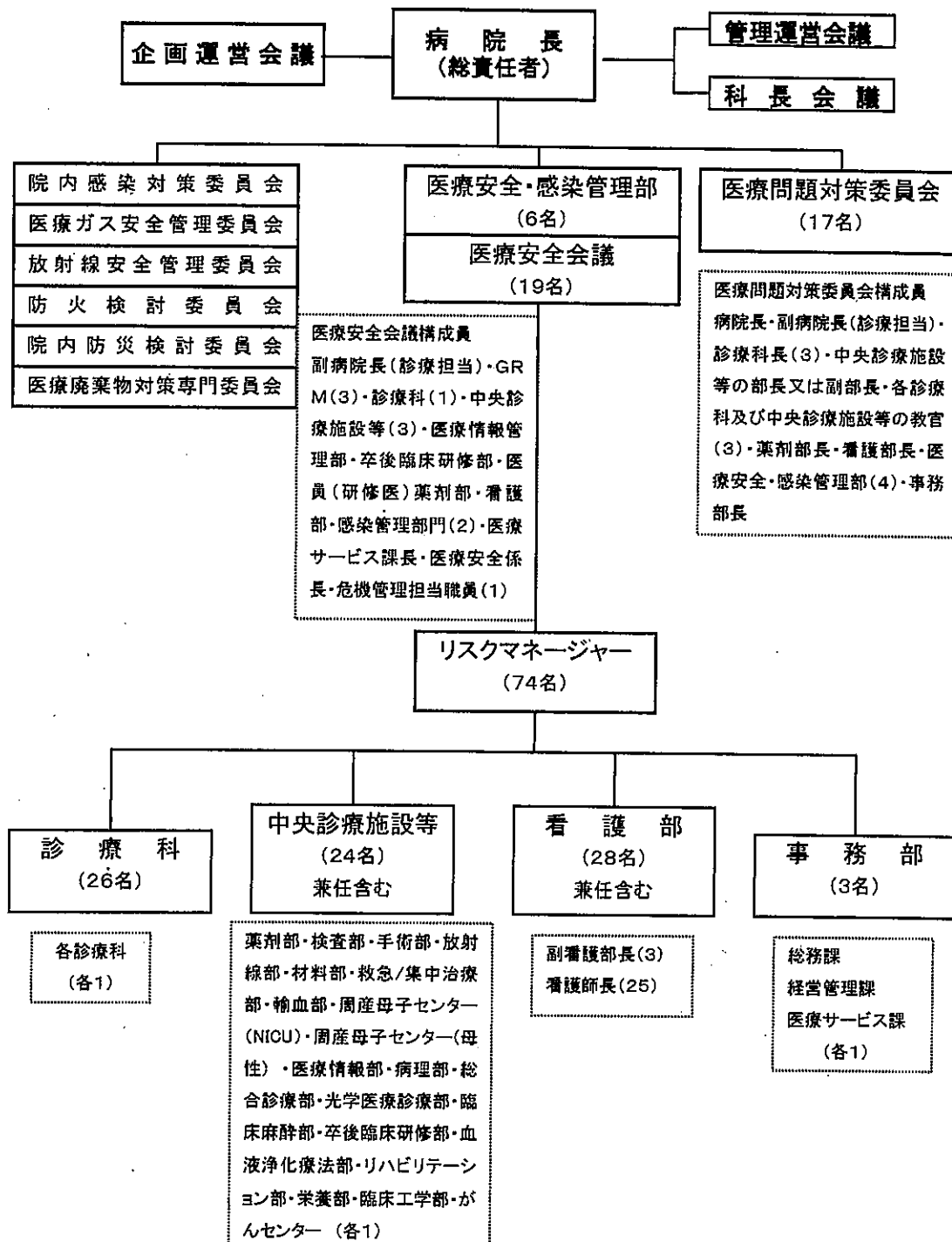
8) その他医療安全の推進のために必要な基本方針

1. 医療安全・感染管理部は各診療科等に共通するリスクマネジメントマニュアル（以下「マニュアル」という。）を、また、各診療科等はそれぞれの部門に特化したマニュアルを作成し、関係職員に周知して医療事故等の防止を図るものとする。作成したマニュアルは常に見直しを行い随時改善するものとする。
2. 医療の安全に関する広報紙の発行等により医療従事者に速やかに医療の安全に関する情報を提供する。
3. 医療従事者の医療安全に関する意識向上を図るため、医療事故防止のためのポスターや標語を募集し、これらを院内に掲示することにより医療安全に関する患者等の理解の促進を図る。

2004年2月制定
2007年10月改訂
(医療問題対策委員会)

安全管理に係る組織図

(リスクマネージャーの配置状況等)



三重大学医学部附属病院医療問題対策委員会内規

第1条 三重大学医学部附属病院（以下「病院」という。）は病院における医療事故の予防及び発生時の対応並びに医事紛争の処理に関し、常時、適切、かつ十分な行為を遂行していなければならない。

第2条 病院に医療問題対策委員会（以下「委員会」という。）を置く。

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 病院長
- 二 副病院長（診療・病院機能評価担当）
- 三 診療科長のうちから 3名
- 四 中央診療施設等の部長又は副部長のうちから 1名
- 五 各診療科及び中央診療施設等の大学教員から推薦された者 3名
- 六 薬剤部長
- 七 看護部長
- 八 ゼネラルリスクマネージャー
- 九 事務部長
- 十 その他病院長が必要と認めたる者

2 前項第3号、第4号及び第5号の委員は、病院長が任命する。

3 第1項第3号、第4号及び第5号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

第4条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 医事法制に関する事項
- 二 医療事故の予防に関する事項
- 三 医療事故発生時の対策に関する事項
- 四 医事紛争の処理に関する事項
- 五 医療訴訟に関する事項
- 六 その他必要と認めたる事項

第5条 委員会に委員長を置き、病院長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員が、その職務を代行する。

第6条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、その意見を聴くことができる。

第7条 委員会は、必要に応じて特別委員会を設置することができる。特別委員会の構成等については、その都度委員会において定める。

第8条 委員会の庶務は、病院事務部医療サービス課において行う。

附 則

この内規は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成21年4月22日から施行し、平成21年4月1日から適用する。

三重大学医学部附属病院医療安全・感染管理部規程

第1条 この規程は、三重大学医学部附属病院規程第15条第6項の規定に基づき、三重大学医学部附属病院医療安全・感染管理部（以下「医療安全・感染管理部」という。）の組織及び業務について必要な事項を定める。

（目的）

第2条 医療安全・感染管理部は、高度医療を提供する大学附属病院に求められている医療事故の防止及び医療の安全性の確保のため、病院長のもとに強い実行力を発揮し、安全かつ適切な医療体制を確立することを目的とする。

（業務）

第3条 医療安全・感染管理部は、次の各号に掲げる業務を行う。

一 「ヒヤリ・ハット報告書」の収集・調査・防止対策及び防止対策の周知徹底に関すること。

二 医療事故防止・安全管理に係わる病院内の巡視・点検・評価に関すること。

三 医療事故防止・安全管理に係わる業務改善の提言・指導に関すること。

四 安全管理に係わる教育・研修・啓発に関すること。

五 医療事故防止対策マニュアルに関すること。

六 リスクマネージャー会議に関すること。

七 その他医療の安全管理に関すること。

（職員）

第4条 医療安全・感染管理部に、次の各号に掲げる職員を置く。

一 部長

二 副部長（医療安全部門）

三 副部長（感染管理部門）

四 ゼネラルリスクマネージャー 2名（第2号の副部長を除く）

五 看護師長（院内感染対策担当）

六 診療科から推薦された者 1名

七 中央診療施設等から推薦された者 3名

八 卒後臨床研修部から推薦された者 1名

九 医療情報管理部から推薦された者 1名

十 薬剤部から推薦された者 1名

十一 看護部から推薦された者 1名

十二 医員（研修医） 1名

十三 医療サービス課長

十四 事務系の職員 若干名

十五 その他病院長が必要と認めた者 若干名

（任期）

第5条 前条第6号から第12号及び第14条の職員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、職員に欠員が生じた場合の補欠の職員の任期は、前任者の残任期間とする。

(ゼネラルリスクマネージャー)

第6条 ゼネラルリスクマネージャーは、医師及び看護師長及び薬剤師をもって充てる。

2 ゼネラルリスクマネージャーは、医療安全・感染管理部専任とする。

(リスクマネージャー会議)

第7条 第4条第2号に定める副部長(医療安全部門)は、同条第4号に定めるゼネラルリスクマネージャーを兼ねるものとする。

第8条 医療安全・感染管理部のもとにリスクマネージャー会議を置く。

2 リスクマネージャー会議は、部長が招集し、その議長となる。

3 リスクマネージャー会議は、ゼネラルリスクマネージャー及び次のリスクマネージャーをもって構成する。

一 各診療科から推薦された者 各1名

二 薬剤部、中央検査部、中央手術部、臨床麻酔部、中央放射線部、中央材料部、救急部、輸血部、周産母子センター(母性)、周産母子センター(NICU)、集中治療部、医療情報管理部、病理部、総合診療部、光学医療診療部、血液浄化療法部、リハビリテーション部、栄養管理部及び臨床工学部から推薦された者 各1名

三 副看護部長

四 看護師長

五 総務課、経営管理課及び医療サービス課より 各1名

4 リスクマネージャーは、次の各号に掲げる業務を行う。

一 「ヒヤリ・ハット報告」の積極的な収集並びに医療問題対策委員会及び医療安全部門において決定した事故防止策・対応策等の必要な情報を医療現場に周知徹底する。

二 各医療現場において、医療事故の原因及び防止方法並びに医療体制の改善方法について、独自に検討及び提言する。

三 各医療現場において、独自に事故防止のための研修会及び勉強会を開き、医療事故防止のための啓蒙活動を行う。

四 その他医療事故の防止に関すること。

5 第3項に規定するリスクマネージャーは、病院長が任命する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、医療安全・感染管理部に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1. この規程は、平成19年1月1日から施行する。

2. 三重大学医学部附属病院安全管理室内規(平成16年4月1日制定)は廃止する。

3. この規程の施行の際現に廃止前の三重大学医学部附属病院安全管理室内規(平成16年4月1日制定)第4条第3号から第8号までの職員である者は、この規程の第4条第4号から第9号までの職員とみなし、その任期は、第5条の規定にかかわらず、従前の残任期間とする。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年5月2日から施行し、平成19年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成19年12月5日から施行し、平成19年11月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成20年8月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年1月1日から施行する。

附 則

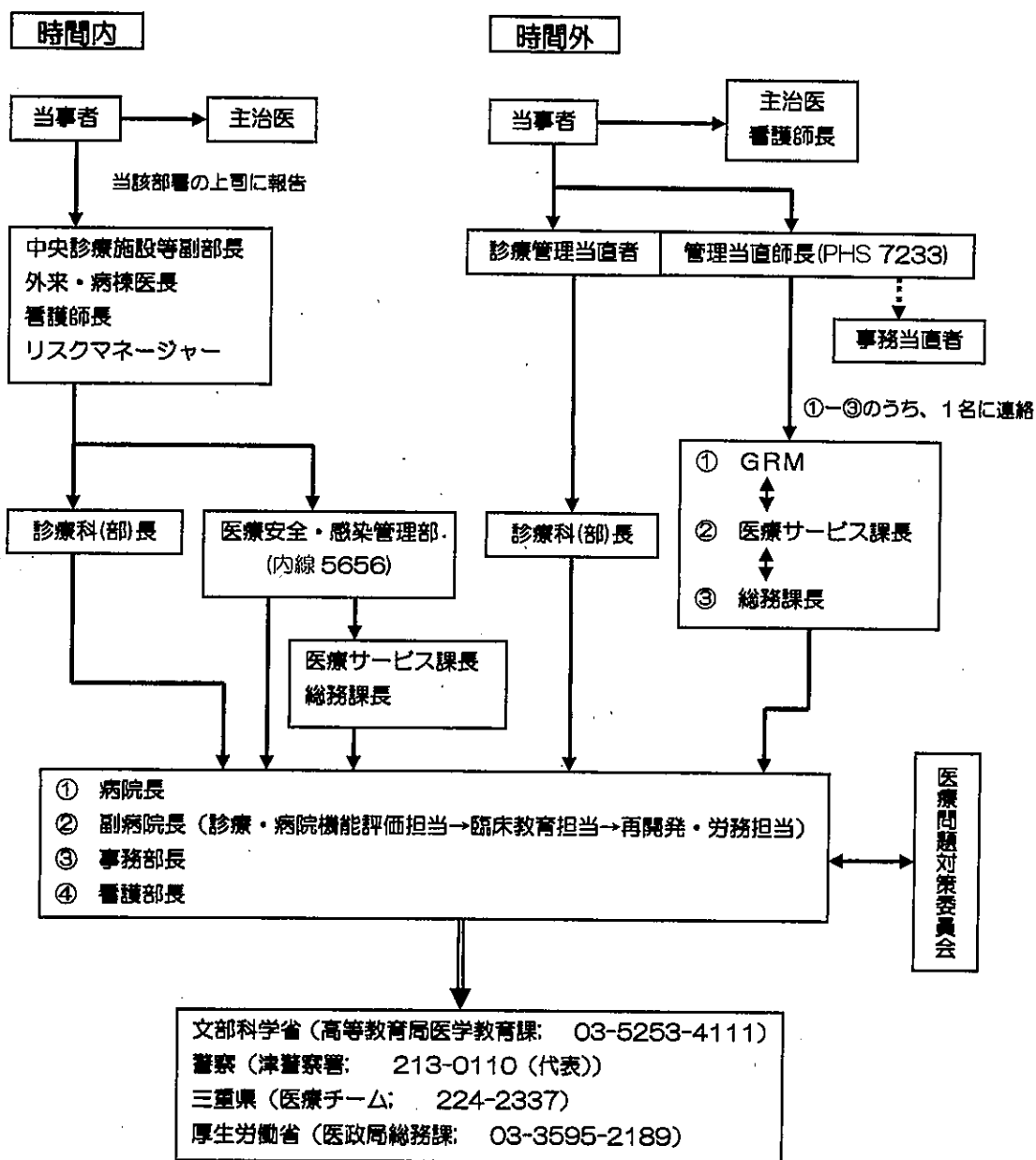
この規程は、平成21年4月22日から施行し、平成21年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成22年10月27日から施行し、平成22年10月1日から適用する

重大インシデント発生時の院内連絡体制

重大インシデントが発生した場合は患者への対応を最優先し、下記の連絡体制により、口頭で直ちに報告すること。インシデントレポートは現場が落ち着いてからの提出でよい。



====> 外部への連絡・報告については次項参照のこと。

.....> 事務当直への連絡内容は管理当直師長日誌の記載事項とする。

三重大学医学部附属病院医療の質・倫理検討委員会規程

(設置)

第1条 三重大学医学部附属病院に、三重大学医学部附属病院医療の質・倫理検討委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- 一 死亡例及び重症合併症例の検討等診療の質に関する事。
- 二 先端医療、終末期医療及び治療拒否における倫理的問題に関する事。
- 三 移植医療における倫理的問題に関する事。
- 四 その他診療における倫理的問題に関する事。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 病院長
 - 二 副病院長
 - 三 病理部長
 - 四 薬剤部長
 - 五 看護部長
 - 六 副看護部長 1名
 - 七 診療科（精神科神経科を除く。）の常勤医師 2名
 - 八 精神科神経科及び臨床麻酔部の常勤医師 各1名
 - 九 （医療安全・感染管理部の）ゼネラルリスクマネージャー
 - 十 医療福祉支援センターの医療ソーシャルワーカー
 - 十一 三重大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会の委員長
 - 十二 事務部長
 - 十三 医療サービス課長
 - 十四 倫理・法律分野の有識者 若干名
 - 十五 その他委員会が必要と認めたる者
- 2 前項第14号の委員は、学外者又は三重大学大学院医学系研究科、医学部及び医学部附属病院 以外の部局に属する者とする。
- 3 第1項第7号、第8号、第14号及び第15号の委員は、病院長が任命又は委嘱する。

(任期)

第4条 前条第1項第7号、第8号、第14号及び第15号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員により補充された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び開催)

- 第5条 委員会に委員長を置き、病院長をもって充てる。
- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
 - 3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。
 - 4 委員会は、原則として毎月1回開催する。ただし、委員長が必要と認めるときは、臨時に委員会を招集することができる。

(申請手続)

第6条 第2条各2号から第4号に掲げる事項の審査を希望する者（以下「申請者」と

いう。)は、倫理審査申請書に必要事項を記入し、関係書類を添えて、所属の診療科長又は中央診療施設等の部長(以下「所属長」という。)を経て病院長に提出しなければならない。

(会議)

第7条 委員会は、委員の過半数の出席により成立する。ただし、特に重要な事項については、3分の2以上の出席を必要とする。

2 委員会の議事は、出席委員全員の合意によるものとする。

3 第1項及び前項の規定にかかわらず、委員が審査対象となる事項の申請者又は所属長であるときは、当該事項に係る審査に参加することができない。

(委員以外の者の出席)

第8条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見又は説明を聴くことができる。

(審査結果の通知)

第9条 病院長は審査結果を審査結果通知書により申請者に通知するものとする。

(実施状況の報告)

第10条 申請者は、前条の通知に基づき実施した内容について、実施状況報告書(別紙様式3)により所属長を経て病院長に報告しなければならない。

(庶務)

第11条 委員会の庶務は、医療サービス課において処理する。

(雑則)

第12条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

1 この規程は、平成18年10月4日から施行する。

2 この規程の施行後最初に任命又は委嘱される第3条第1項第7号、第13号及び第14号の委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。

附 則

この規程は、平成19年1月1日から施行する。

附 則

1 この規程は、平成19年5月2日から施行し、平成19年4月1日から適用する。

2 この規程施行の際現に改正前の第3条第1項第7号の委員である者は、この規程の第3条第1項第7号及び第8号の委員とみなし、その任期は、第4条の規定にかかわらず、従前の残任期間とする。

附 則

この規程は、平成21年4月22日から施行し、平成21年4月1日から適用する。